

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名 : 三木 いずみ

1. 研究者になるうとしたきっかけ

父が研究者のため。私は特に、医学的に機序解明をする面と社会倫理的な面を持つ臨床研究に興味を持ちました。臨床研究をさらに良くする研究を実施していきたいと思います。

2. 助成研究の内容紹介

臨床試験において患者・市民参画とは、研究のプロセスの一環として、研究者が患者さんや市民の知見を参考にして研究を計画・実施することを指します。本邦では関心は高まっているものの、これまで十分な取り組みは行われてきませんでした。

私は、2015年より、がんゲノム異常に基づく個別化医療実現のために国立がん研究センターと製薬企業等が共同で行う産学連携ゲノムスクリーニングプロジェクト（SCRUM-Japan）の臨床研究の支援をしてきました。このSCRUM-Japanにおいて、患者市民参加型臨床研究の基盤構築を行いたいと考えています。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

SCRUM-Japanは全国的なプロジェクトであり、かつ先進的な臨床研究を実施しています。しかしながら、新たな治療につながった患者さんはまだ多くありません。

本研究により、全国を通して臨床研究に患者・市民参画の取り組みが導入される基盤のひとつとなることを期待します。また、さらに患者さん・市民のためになる、よりよい臨床研究が計画・実施されることを目標としています。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

臨床研究があって、治療法や医薬品が開発されていきます。治療法や医薬品は患者さんのためのものです。ぜひ皆さまの力をお貸してください。